

## 気持ちよく納税しよう

福岡教育大学附属福岡中学校 1年 八重倉 悠希

税金とは何だろう。小学生の時に日本人に納税の義務があることを習った。他には直接税、間接税がありその中に所得税・法人税・住民税……。たくさんの種類の税金があると知った。こんなにたくさんの税金を払ったら大変だろうなと思っていた。

でも、最近生活保護をもらっている人の話を聞いて税金の悪いイメージがちょっと変わった。その人はもう七十歳を過ぎていて持病があるのに一人暮らしをしていた、旦那さんは何年か前に亡くなり息子さんも交通事故で亡くなったそうだ。身体も弱くて持病があるそうで働くこともできないと、とても困っていてよく僕の祖母に相談をしに来ていたらしい。そこで、民生委員という地方公務員の人の相談にのってもらい生活保護を受けるようになったそうだ。

生活保護というのは経済的に困っている人に対する日本における公的扶助制度で、健康で文化的な最低限の生活を保障する制度だ。自立を助長する目的があり、簡単に受けられるものではないから様々な要件や手続きがある。そのおばあちゃんは生活保護を受けることになり今は感謝しているそうだ。

税金を納めることで本当に困っている人を助けることができるし、一人ではできないことが大勢の力で成し遂げることができる。僕たちの学校や、公共事業などに使われているとは知っていたが、生活ができず困っている人を助けているということを初めて知った。税金を納めることが世の中の人々のためになるし、いつか自分も助けてもらうかもしれない。

僕の父は会社を経営しているが、毎年税金を支払う頃になると頭を悩ませていた。でも、コロナ禍で国からの雇用調整助成金や感染拡大防止協力金などの給付金をもらい、会社を継続することや従業員の生活を守ることができている。僕が税に関する作文を書くと言った時に

「ちゃんと税金を納めていてよかった。」  
と話してくれた。

僕はその時、税金のおかげで生活ができていると改めて実感し、国の納税制度というものが素晴らしいものだと思った。自分が大人になったときは嫌な気持ちで納税するより、気持ちよく納税をしようとして心に決めた。